

令和2年度第1回柏市地域包括支援センター運営協議会会議録（各委員意見及び市回答）

1 令和元年度地域包括支援センターの活動実績について

内容	委員	御意見等	市回答
各事業の活動実績について	高橋委員	各事業の活動実績が増加していることは素晴らしいことと思います。活動内容にもよるのだと思いますが、地域によって多少差が出ている感じも受けます。実施時期等も含めて一年を通してどの地域も平均的に実施できると良いかと感じました。	地域の実情や課題など、それぞれの特性に応じて重点事業を定め、P D C Aサイクルを回しながら取り組みを進めてまいります。
	中村委員	全体的に相談件数も増えていて、地区での認知度が上がってきている数字だと思っています。	
	濱田委員	資料を拝見するとどこの包括もしっかり責任を果たしていることがわかります。感想としては、各事業の開催数や参加人数にバラツキがあるのは包括のある地域の特性なのかなと思いました。	
コロナ禍における活動について	植野委員	新型コロナウイルス感染症の影響で実施数での評価が難しいです。	社会情勢に合わせて計画を見直し、感染症対策を講じた上で、事業を実施してまいります。
	中村委員	年度末に向けてコロナの影響で予定通りの活動ができなくなり、ご苦労も多かったと思います。	
	羽鳥委員	コロナ禍において、消費者被害、虐待の今後の推移に注目したい。	
総合相談事業について	奥野委員	前年度に比べると相談実績数は1.5倍となり、また、相談内容として認知症に関する事業など3つの事業が追加されたので相談支援事業の強化・充実がなされたと思います。生活支援体制整備事業に関して具体的な相談内容を教えてください。	支えあい推進員や地域住民から、支えあい会議の進め方や支えあい活動の取り組み方などの相談が寄せられ対応しております。
ケアプラン数について	植野委員	スライド14のケアプラン数は包括によって件数と直営分とに開きがある。委託件数が多いと給付管理業務が増え、直営分が多いとマネジメントが増えると思われるが包括の負担となっていないか確認したいです。	ケアプラン数については、直営及び委託分のそれぞれの実績を毎月確認しています。地域包括支援センターの負担増とならないよう、必要に応じた職員配置を行ってまいります。
その他	植野委員	柏市介護支援専門員協議会としての研修は、会員数が360名と多くなっていることから座学の研修が多くケアマネ同士の交流の場を提供できないため、地域包括支援センターでの地区別研修は交流及び情報交換の場として非常に有効であり、助かっており感謝しています。	

2 令和元年度地域包括支援センターの事業評価について

内容	委員	御意見等	市回答
自己評価と行政評価の相違について	植野委員	自己評価と行政評価の差が気になるところです。多くはないのですが、今後も差が縮まらない場合は評価基準の共有のためのすり合わせ作業が必要と感じます。	自己評価及び行政評価実施後のヒアリングにおいて、指標についての共有を行っています。次年度には改善が図られるよう、支援を行ってまいります。
	濱田委員	どの包括も問題なく事業を行っていることがわかりました。自己評価と行政評価の食い違い（自己評価が2に対し行政評価が1に名なっているところ）がいくつか見られるのは、お互いの基準が違っているのか、本当にできていないのにできていると思っているのかが気になりました。	
評価指標について	奥野委員	地域包括支援センターの評価指標数（特に市の独自指標）が多すぎると感じました。指標内容の見直しにより指標項目の簡潔化を進めてもいいのではないのでしょうか。（例えば、No26「成年後見制度」の☆②と☆③を1つにまとめる。）	独自項目の指標については、簡潔に評価できるよう必要に応じて見直しを図ってまいります。
	中村委員	数字での評価となり、見やすさの感じ方は個々でしょうが、私は見やすいと思います。日々活動を頑張っておられる様子がよくわかります。評価1がついていた人員配置ですが、保健師の不在でしょうか。看護師さんが頑張って下さっているとは思いますが、ぜひ保健師配置を実現させていただきたいと思います。	仕様に定めた適正な職員配置については、運営法人に対し、引き続き協力を求めてまいります。
地域包括支援センター利用者アンケートについて	植野委員	アンケートに関して、一度でも嫌な思いをすると厳しい評価になりやすいと思いますが、高評価が多く包括職員の方が頑張られているのを感じます。また未回答は民生委員と利用者が多い傾向があると思います。項目に関しては「対応の迅速さ」「対応は満足できるものであったか」に未回答があり「わからない」の項目があっても良いのかと思いました。	地域包括支援センターアンケートについては、実態を把握できるよう、必要に応じた項目の見直しを検討します。

3 令和2年度地域包括支援センターの活動計画について

内容	委員	御意見等	市回答
コロナ禍での活動計画について	植野委員	<p>コロナ禍において活動自粛が余儀なくされており、成功指標の達成が難しいものが増えることが予測され、作成時に苦慮されたのではないかと思います。</p> <p>地区別研修は交流の場としても有効ですが、現状において「参加したが感染が心配」と参加した方から伺いました。指標があることで包括の職員の方も「不安だがやらなければならない」と感じていたのではないかと案じます。</p>	<p>感染状況を注視しながら、オンラインの活用や開催時間の短縮など、感染予防策を講じた取り組みを行ってまいります。</p>
	濱田委員	<p>コロナ禍の中、計画どおりにいかないこともあるかと思いますが感染予防に気を付けて事業を行っていただきたいと思います。</p>	
	鎌田委員	<p>事業実績で、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に、地域包括支援センター主催の様々な講座・研修会・会議の中止を余儀なくされたとのこと。既にコロナ禍の前兆を確認できている。</p> <p>令和2年度がスタートし4ヶ月目を迎える現時点では、コロナ禍の程度はさらに悪化している状況である。今年度の活動計画に新型コロナウイルス感染拡大防止に係る高齢者福祉について、何れのセンターの計画にも見られないことは、残念に思う。</p> <p>今年度の計画は、現実に合わせて大幅な修正が必要ではないでしょうか。走りながらも行動計画は見直していくべきだと思います。</p>	<p>感染状況を注視し、必要に応じて修正するなど、適切に取り組んでまいります。</p> <p>また、感染拡大や長期化が見込まれる際には、安否確認や見守り活動についても検討してまいります。</p>
その他	植野委員	<p>事業計画が見やすくなったと感じました。</p>	
	中村委員	<p>今年度の書式は見開きでとても見やすくとまっています。作成ありがとうございました。</p>	
	中村委員	<p>北部包括でホームページの作成と記載がありましたが、早速実現されています。</p> <p>これからは若い人も包括支援センターに係ることが多くなると思いますので、市役所の包括支援センター一覧からホームページに飛んでいろいろ調べられる。</p> <p>障害者で訪問が難しい人はメールフォームからでも相談できる。これが理想だと思います。</p>	

4 その他、ご意見をお聞かせください

内容	委員	御意見等	市回答
地域包括支援センターの周知について	羽鳥委員	昨年亡くなった母もセンターを利用していたようだが、内容、所在地（ネットで調べた）がわからなかった。やはり、離れて暮らす親族のためにもっとセンターのリーフレットを広く配布したらと思う。	リーフレットの配付はもとより、様々な方法により、周知に努めてまいります。
	村上委員	新型コロナウイルスの影響で引きこもり状態になっている高齢者の方が増えていると思います。包括支援センターへの相談件数も増えているのではないかと思います。どこに相談したら良いのか困っている方も多いのではないのでしょうか。町会の回覧や掲示板を利用して、身近な相談場所に地域包括支援センターがあるということをお知らせしてほしいです。	
地域包括支援センターの質について	奥野委員	第8期柏市高齢者いきいきプラン21策定のための基礎調査報告書内のケアマネジャー調査の項目「地域包括支援センターの役割」を見ると、センターそれぞれの熱意は評価されていますが、困難事例などの相談に関する対応や能力の差を指摘する記述が幾つかあります。センターによる力量レベルの差を生じさせないためにどのような対策をお考えですか。	基幹機能としての役割を有する地域包括支援課の専門職による後方支援や、地域包括支援センター職員向けの研修会の開催などを通じて、質の平準化を図ってまいります。
コロナ禍での総合相談、フレイル予防について	植野委員	コロナ禍において、行政の方も大変な思いをされていると思います。いつもありがとうございます。	
	羽鳥委員	センター各々の皆さまの活動自粛等を思うと心苦しい。	
	高橋委員	新型コロナウイルス感染症で世の中のざわつきはまだまだ続くと思われ。精神的にも追いつめられるケースが増えてきていると思いますので虐待などに発展しないよう、また様々な事象を見逃すことの無い様に多職種でも連携できると良いと思います。	センター内のチームによるアセスメントを適切に行い、多職種と連携しながらできる限り未然に防ぐよう取り組んでまいります。
	中村委員	コロナ禍での活動、日々ご苦労の多いことと思います。サービス事業所は自社からコロナを出さないように、感染症の勉強会をして環境を整え、利用者の健康管理、職員自身の健康管理、事務所内での人数制限、リモートでの会議などできる限り努力しています。現在都内での感染経路不明の感染者が増えていますので、都内へ通勤している同居家族が罹患したり、濃厚接触者となった場合、同居の高齢者は一体誰がお世話をするのでしょうか。関わるケアマネジャーも不安な日々を送っています。またコロナにかかったらおしまいとも思っている高齢者は、生活上必須ではない訪問リハビリなどのサービスを自粛しており、2月からリハビリを中断してしまった高齢者もいます。	同居家族が罹患したり、濃厚接触者となった場合の高齢者の対応については、世帯状況をふまえ調整できるよう、関係者と連携して対応します。
	中村委員	今後、閉じこもりになった高齢者の低下が、徐々に表れてくることと思います。今後何かあればまず相談できる窓口、包括支援センターを頼りにしております。今後とも宜しくお願い致します。	感染の拡大予防に向けた対策を講じながら、紙面や動画などのコンテンツを活用し、高齢者のフレイル予防に取り組んでまいります。
	羽鳥委員	高齢者にとってこの時期のフレイルの重要性を感じる。新聞では特集もあるが購読者数も減少しているようなので、なんとか「新しい生活様式」の中で解決してほしい。	
災害、感染症を踏まえた取り組みについて	高野委員	新型コロナに限らず、今後、災害や感染症に関して、特に認知症患者に対する対応や行動指針を考える必要があると思います。特に、口腔ケアを延期してしまったために、感染リスクが悪くなっている方も多くみられ、施設によって対応が異なります。リハビリ、口腔ケア等、安易に中止することのないよう柏市全体としての取り組みをしていけると良いと思います。	職能団体や関係機関との連携を図りながら、高齢者の口腔機能の維持に努めてまいります。